

ながおかしよいた

長岡市与板地区

(新潟県長岡市)

- 計画期間 令和4年度～令和8年度
- 面積 110.9ha
- 交付対象事業費 1,651.3百万円
- 市人口 262,387人

ポイント

- ・ 過疎・高齢化が進む地域の活力の維持
- ・ 人口減少や公共施設の老朽化を背景としたコンパクトで持続可能な都市への再編

地区概要

与板地域は、旧三国街道沿いの城下町として栄え、土地区画整理事業により市街地を形成した地域であったが、人口減少・高齢化で活力の低下が懸念される。そこで、既存の公共施設等を集約・再編する地域交流拠点施設の整備等を行い、生活利便性向上や多世代交流、にぎわい創出を図る。

目標

公共施設の再編・集約化による都市機能更新を契機とした、地域の暮らしの魅力・利便性向上と、多世代交流や地域住民の多様な活動によるにぎわい再生を図る。

指標

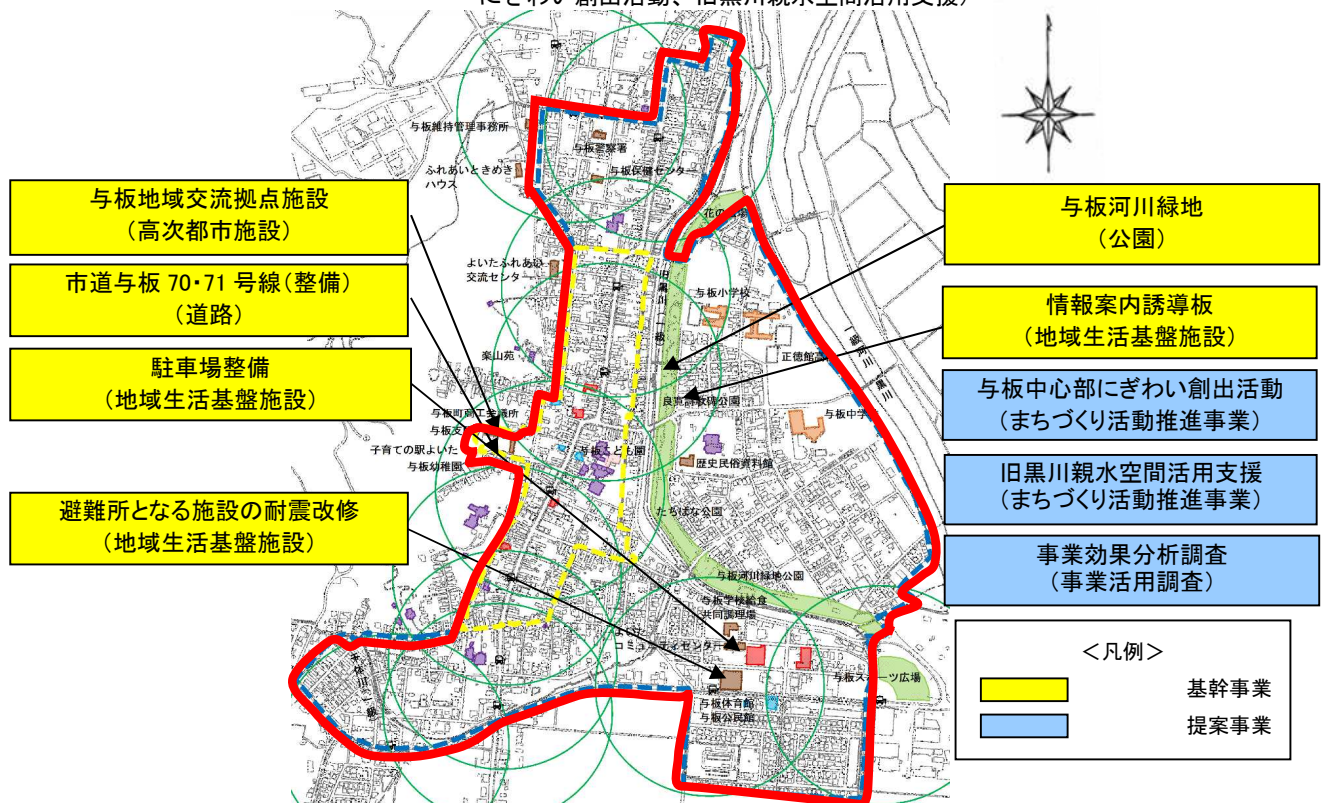
機能・サービスの充実等による便利なまちづくり及び、中心部ににぎわいの創出・地域発信のまちづくりの効果を確認するため、施設の利用者、空き家の件数、イベント参加者数を指標とした。

地域交流拠点施設の年間利用者数	23,106人/年 (R1)	→	23,100人/年 (R8)
計画区域内における空き家の件数	43件 (R3)	→	48件 (R8)
計画区域内におけるイベント参加者数	20,300人/年 (R1)	→	22,300人/年 (R8)

事業内容

基幹事業 (1,635.5百万円) → 道路(市道与板70・71号線(整備))、公園(与板河川緑地整備)、地域生活基盤施設(駐車場整備、情報案内誘導板、避難所となる施設の耐震改修)、高次都市施設(与板地域交流拠点施設)

提案事業 (15.8百万円) → 事業活用調査(事業効果分析調査)、まちづくり活動推進事業(与板中心部にぎわい創出活動、旧黒川親水空間活用支援)



地区の現況と課題

与板地区は、大河ドラマ「天地人」の主人公「直江兼続」、江戸時代に与板を治めた「牧野家」「井伊家」の城下町として栄えた史跡が多く残されているとともに、「雁木」から変遷したアーケードが独自の地域景観を醸し出しており、今でも、城下町の名残りである街並みとの調和を保ちながら大切に保存・活用されている。

市民活動が盛んな地域であり、地域資源を活用した地域づくり活動を行う団体により、多種多様なイベントが実施されている。

一方で、主要産業であった打刃物産業の衰退や人口減少・高齢化等に伴い、中心市街地においては空き家・空き店舗等が目立ち、空洞化が顕著である。また、中心部に位置する公共施設は老朽化や耐震性の不足等の課題を抱えている。

そのため、人口密度を確保し、コンパクトで持続可能な都市への再編と、多様な人々の活動・交流の促進による賑わいや活力の創出が求められている。



▲城下町与板の街並み



▲地域団体による明かりのイベント
「キャンドルナイト@与板」

提案事業の特徴

与板中心部にぎわい創出活動

地域交流拠点施設活用の先行社会実験として、近接する商店街で空き店舗の試験的活用等を検討するとともに、商店街の賑わい再生戦略を検討する。

旧黒川親水空間活用支援

地域交流拠点施設活用の先行社会実験として旧黒川沿いにある都市緑地を用いて試験的活用等を検討するとともに、親水護岸を活用したにぎわい再生戦略を検討する。

計画策定プロセス

令和4年1月に「新しい『与板地域交流拠点施設』に係る意見を聞く会」を2回開催。新成人やこども園保護者、地域団体、地元大学生、高校生が参加し、施設の活用方法や地域の特色等について話し合うワークショップを行った。

その後、市長の附属機関で、当該地域の施策やまちづくりについて地域住民の立場から検討し、行政に反映させるため設置されている「与板地域委員会」で意見集約し、「与板地域交流拠点施設整備基本構想」を策定した。この構想を元に都市再生整備計画を実施し、住民の交流・活動の拡大、地域活力の向上を目指していく。



▲「新しい『与板地域交流拠点施設』に係る意見を聞く会」